

きょうたなべ のうぎょう委員会だより

No.59
2011.11 発行
広報アイデア委員会

未来のあこがれはここから！



私たちが植えたお米だよ

協力：普賢寺小学校・普賢寺幼稚園
 「こうやって刈るんだよ」長靴うもれて大変だ。
 10月6日、5年生と幼稚園児がしりもちいっぱいつきながら
 カエルさんやねずみくんと一緒に稲刈りがんばったね。
 [文：岡本校長] [撮影：堀江幸和委員]

- 2・3 新農業委員紹介
- 4 巧発見！(中島さん・天王)
- 4・5 農業委員会活動方針
- 6 伝 伝統行事「百味」「湯立」
- 6 家族経営協定(杉田さん・飯岡) / 普賢寺ふれあいの駅夏祭り
- 7 人 新規就農者(三沼さん・大住) / 全国農業新聞 / 農業者年金
- 8 村 農村紹介(飯岡) / 男の酒肴(ナスの辛子和え)



市の東南に位置し、飯岡古墳群と称されるこの地は、休日ともなると近傍からの散策者がよく訪れています。地域の農地は、丘陵斜面に広がる特産のお茶畑が約20ha、山裾から平坦部には水田が約60ha、農家組合員は75軒程度で構成されており、耕作者の高齢化や後継者不足、また、出作者の耕作放棄から荒廃農地が年々増加傾向にあるなど課題は多い。そうした中、地域として取り組んでいる活動の一部をご紹介します。農家組合の組織下に、若い担い手を中心とした『明日の地域農業を考える会』を発足、木津川からの揚水

の効率化や利便性を追求するべく、水利体系の見直しを実施しています。また、任意のサークル活動には、土地柄、お茶に関する『お茶愛好会』や『茶そばクラブ』があり、お茶の楽しみに併せて情報の共有化を図りつつ、お茶の振興と育成に寄与しています。なかでも後者のクラブは荒廃地を活用し、そばの栽培を実践するなど荒廃農地解消に一役買っています。農地を適正に管理するための地域の取り組み、これを通し近い将来それぞれの活動とその成果が、地域農業に還元されることを信じて止みません。
 (内藤武委員)

木津川左岸の丘陵地「飯岡」 田んぼに浮かぶ小島にもみえる



私の仲間たちで静かなブームになっている絶品漬け物
 「ナスの辛子和え」を紹介します。



お酒のお共にぴったりです！
 (小田博委員)

<材料>

ナス(親指程度の大きさのものを使用)	10kg
塩	8kg
ザラメ	1kg
しょう油	800cc
みりん	4/5カップ
辛子	お好みで

STEP①
 1. ナスに塩を入れ漬ける

↓ 半年から1年程度漬け置く

STEP②
 1. ナスのヘタを取り半分に切る
 2. 塩が完全に抜けるまで水に漬ける(3日程度)
 3. ザラメ・しょう油・みりんを混ぜゆっくり溶かす
 4. 2のナスを絞ったものに3を入れ、焦げ付かないように煮る
 5. 食べる直前にお好みで辛子和え

POINT
 ・ナスは収穫が終わる11月頃のものをご使用ください
 ・ザラメ・しょう油・みりんの分量は、塩抜き後絞ったナスの重さ3kgに対しての分量です

編集後記
 今回、表紙のタイトルなどを大きくリニューアルしました。大人から子どもまで見ていただける広報紙を目指しました。将来の担い手が農業に夢を持てるお手伝いができれば幸いです。
 (堀江幸和委員)

京田辺市農業委員会 新メンバー決定!

平成23年7月20日始動!!

農業委員の任期満了に伴う改選が行われ、公選委員20名、選任委員7名、合計27名の新しい委員が決まりました。任期は平成26年7月19日まで3年間で、この間、地域における農地の権利調整など、地域と行政の橋渡し役として、また、地域農業のリーダーとして日常的な活動を積極的に行っていきます。

会長就任にあたって

林 善嗣(山本)
今日、農業を取り巻く環境は非常に厳しく深刻な状況にあります。このような時期に大役を賜り責任の重大性を痛感しております。また、今年は、3月に東日本大震災、巨大津波、原子力発電所の事故と日本を揺るがす未曾有の災害に見舞われ、一日も早い復興と原発事故の収束を願うところで

口蹄疫、放射能と悪い現実が表面化しておりますが、地方においては、荒廃農地の解消だけでなく、地産地消と6次産業化を推進し、儲かる農業として成功した事例もあります。私たち都市周辺農家も、地の利を活かした農村ビジネスを充実させ、販売に有利な付加価値の高い特産物の開発に取り組みが必要があると考えます。後継者の育成や、食育活動も大切なのは当然ですが、新鮮で安心・安全の工コな農産物を提供するなど、直売所の充実も重要だと思えます。

課題が山積しておりますが、今日まで都市農業として代々築き上げた家族経営を、なお一層充実させることが重要だと考えます。特産物の育成や集落計画ビジョンを推進することで、田畑で汗する若者の姿を多く見られるような環境づくりや仕組みを、市をあげて構築する必要があります。そのためにも、市、農業委員会、農協が三位一体となって支援していくべきだと思います。

最後に一言

米の先物取引により、主食である米が投機対象になり、マネーゲームに利用されることは阻止したいものです。また、TPP参加により農業への打撃は避けられないと思います。これには断固反対し、日本の農業と食の安全・安心を是非とも守っていききたいです。

新農業委員 (50音順)
一言なんでも自己紹介

安倉定喜(松井)
「水稻・茄子を生産しています。健康管理に充分注意して頑張ります」
上村義忠(東)
「遊休荒廃農地の解消を図り地域農業の活性化に取り組みます」

岡本忠司(三野)
「今回、改良区の推薦を受け、委員会の一員として活動して参ります」
奥西和子(草内)
「再度、議会推薦を受け『仕事』頑張ります」

小田 博(東林)
「元会社員の経験を活かして農業を守りたいです」
木田光彦(松井)
「緑豊かな調和のとれた自然環境を次世に送りたいです」

喜多義治(薪)
「車で旅行し特産品に出会うことが楽しみです」
北川章光(西八)
「のんびりと農作業と音楽を楽しむ生活を見えています」

林 善嗣(会長)
「26 喜多義治(会長職務代理者)」

木村照夫(出垣内)
「古稀を迎えた新人です。農地の法律手続き等に悪戦苦闘中!!」

木村幹雄(薪)
「50年以上農業で茄子・筍・水稻の3作中心に元気で体を動かしています」
香村侃彦(田辺)
「私は明るい展望の農業構築に努力し頑張ります」

興村義久(興戸)
「美味しい米作りを目指して農作業に励んでおります」
小西康夫(河原)
「趣味は畑で果樹、野菜を作ることです。環境に良い農地を守っていききたいです」

榊田博之(打田)
「山間地農業を次世代に継げる取り組みをします」
奇嶋 弘(宮ノ口)
「孫の代まで安心・安全な農業をやります」

芝 裕一(岡村)
「緑豊かな田園都市を守り、地域農業振興発展に努めたく思います」
内藤 武(飯岡)
「引き続き、荒廃農地の解消に努めます」

中西 稔(天王)
「農業は人類の歴史であり未来産業です。後継者を皆で育てよう」

中村英夫(田辺)
「元気のある限り、農業に従事して農業の魅力を知ってもらいたいです」
藤田喜一(草内)
「先輩の指導を受けながら、えび芋栽培を始めました」

堀江幸和(水取)
「遊休農地解消・担い手になりたい環境づくりを推進します」
松本好次(天王)
「農業・農政に門外漢の私。勉強させて頂きます」

水山定裕(南山西)
「地域の仲間と放任竹藪の管理をする組織を結成」
森田典子(高船)
「地域農業を支える直売所『普賢寺ふれあいの駅』が私の生き甲斐でもあります」

山下明子(普賢寺)
「安心・安全の食作り地域農業発展のためがんばります」
山村治義(多々羅)
「斬れる居合い戸山流居合道を精進しています」

STOP!!
荒廃農地

農地部会
～農地を守るぞ!～



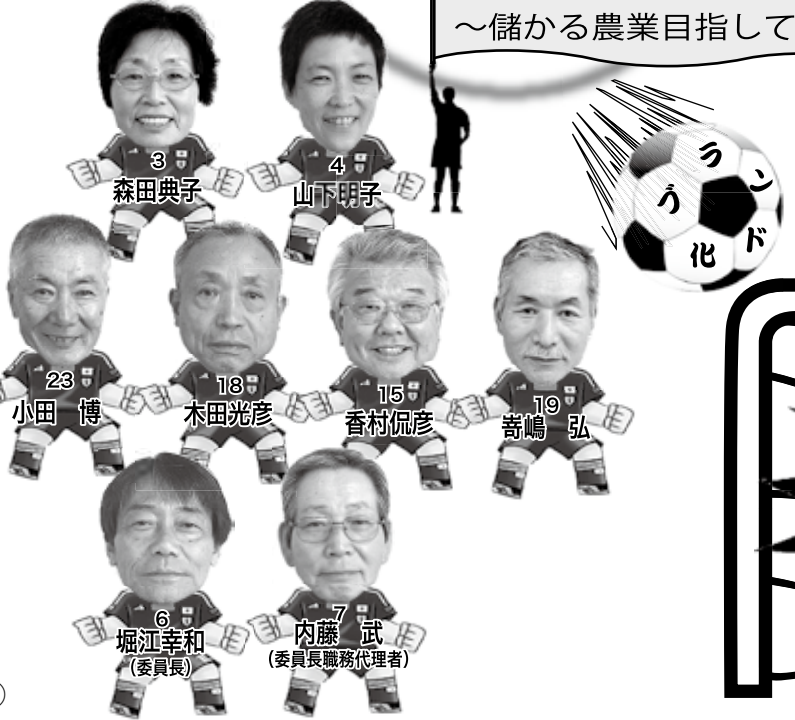
農政部会
～農業者に優しい政策を!～



違反転用には
レッドカード!



広報アイデア委員会
～儲かる農業目指して!～



す。
儲かる農業を目指して
昨今の日本の農業情勢は、鳥インフルエンザ、

若者が農業で活躍
できる環境を!
現実には、農家所得の減少や担い手の高齢化、後継者不足など多くの

京田辺市農業委員会「活動方針」

今日、我が国の農業・農村をめぐる情勢は、食料自給率の問題、農業従事者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加、グローバル化に伴う輸入農産物の増加による国際競争力の低下、またTPP（環太平洋パートナーシップ協定）問題など様々な課題に直面しています。その一方で、消費者の食の安全に対する関心や農業が持つ多面的機能への期待が高まっており、農業が国民の生活に果たす役割が大きく見直されてきています。

こうした中でわれわれ農業委員会は、かけがえない農地を守り、力強い農業を作る架け橋となり、優良農地の有効利用や担い手の確保を行い、「地域の農地と担い手を守り活かす運動」を十分に推進しなければなりません。

このためには農業委員が意思統一を図り、農業者の代表としての自覚と誇りを持って行動する農業委員会としての実践活動を、より一層強化しなければならぬと考え、今後三年間の任期中の活動の柱となる「活動方針」を平成23年10月の農業委員会において決定し、積極的に活動を展開します。

一 地域農業の担い手や農作業受託組織の育成を応援します。

農業者の高齢化等による労働力不足に対応するため、地域の農業者に呼びかけて話し合いの場を持ち、担い手・後継者・新規就農者の育成や農作業受託組織づくりに協力します。

二 農地行政の適正な執行を引き続いて行います。

農業者を代表する機関として、農地の売買や転用について従来と同様に、農業委員等による現地調査を行い審査します。

三 遊休荒廃農地の解消に取り組みます。

農地の有効利用を進めるため、遊休荒廃農地となっている農地について各地域の農業委員が所有者と話し合いの場を持ち、認定農業者等への農地の利用集積の取り組みを積極的に推進することにより、遊休荒廃農地の解消を図ります。また、農家組合や、JA京都やましろと連携して、各地域に見本田を設置し、荒廃農地解消と発生防止に取り組みます。

四 地域特産物の育成や地産地消を推進します。

「広報アイデア委員会」を設置し広く意見を求め、儲かる農業を目指して、付加価値の高い農作物や、ブランド化を模索する取り組みと、安心・安全な食物を提供し、地産地消を推進します。

五 補助金の有効利用ができる環境づくりを目指します。

補助金の対象となる事業を積極的に利用できる環境づくりを目指します。

六 農業者の代表機関として行政に働きかけます。

農業者の声を農業行政等に反映させるよう意見の集約等を行い、行政に働きかけます。

たくみ

巧みだん！



農業委員が体を張って突撃取材

農業をするかたわら、稲わらを用いての宝船作りをされている中島嘉久さん（天王在住・68歳）に取材させて頂きました。

きっかけは友人の一言

中島さんは15年ほど前、参加した新年会の受付に飾られていた宝船を見て、自分でも作れるんじゃないかとつぶやいたところ、「お前に作れるわけがない！」と、側にいた友人のキツイ一言。これがかきつけとなり闘争心に火が付き、以後毎年作るようになったそうです。設計図もなく、見よう見まねだけで作ってしまう器用さに、ただただ驚くばかりです。

お寺に奉納される船

毎年自分なりにアレンジを

積み重ね、いつでも新鮮な稲穂を飾れるようにとの思いから、船首と帆先を筒状にし、稲穂の着脱が容易にできる現在の形に辿り着いたということです。以前は15隻もの船を作った年もあったそうですが、体力的な衰えから、今は4隻が限界だそうです。完成した船のうち2隻に金銀の塗装を施し、近くのお寺に奉納している中島さん。素早くわらを編み、あっという間に船を形作っていく真剣な姿は、威厳があり職人そのものでした。



船に積む米俵を制作する中島さん

取材後記

今回取材させて頂くにあたり、私も一緒にお手伝いすることを条件にご協力頂きました。より楽しい情報を読者にお届けしたいの思いから、1日2時間半、足手まといになりながらも汗水垂らして頑張り、3日目ようやく1隻完成！これでようやく取材に就いてもらえるとの安堵感と同時に、心地良い疲労感、そして達成感で一杯でした。中島さん、ご協力頂き本当にありがとうございました。宝船は市役所農業委員会事務局窓口にて展示していますので、是非見に来てください！（堀江幸和委員）

耕作放棄はあかん！

農地をお持ちの方へ
農地は適正に耕作しなければならない場所として法律で定められています。
耕作をして、きちんと農地を利用しましょう！

耕作が困難な方は、荒廃する前に農業委員にご相談ください

利用権設定

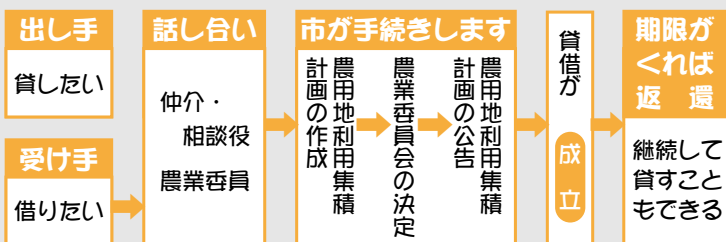
ご存知ですか？

農地の貸し借り、安心簡単！

利用権設定（農用地利用集積計画）とは、農業経営基盤強化法という法律に基づく農地の貸し借りで、農業委員会の決定を経て市が公告します。農地法の許可が不要で手続きも簡単です！また、平成21年度の農地法の改正により、相続税の納税猶予の対象地でも貸せるようになりました。（旧制度で猶予を受けている人は「20年免除」から「終身利用」になりますので、ご注意ください。）

手続き方法

貸し手・借り手の話がまとまれば、農業委員会事務局に申請書（事務局にあります。）を提出してください。貸し手・借り手が見つからない場合は、地区の利用調整推進員（農業委員）にご相談ください。



注意！

次の土地、人は利用権の設定はできません。

- 市街化区域内の農地
- 小作地
- 売買等の登記の未登記の農地
- 借り手の耕作面積が3反未満の人（借りる土地含めて）

貸し手のメリット

- 期限がくれば必ず返還されます。
- 離作料の支払いが不要です。
- 不在地主でも貸すことができます。

借り手のメリット

- 期限内は安心して耕作ができます。
- 更新により継続して借りることもできます。

品揃え豊富な 八百屋さん?!



実は…**神様へのお供え物**です。



なんと品数100以上!!

山本の百味と湯立

毎年10月に佐牙神社の山本御旅所おまひしよで催される、五穀豊穡、無病息災を願う伝統行事。昆布や寒天などの「海の幸」、原則地元で採取された穀物や豆類、果物などの「山の幸」が神前に供えられる。特筆すべきは、その数であり、100種類以上の「百味」が献上される。中には、南国のイメージがあるドラゴンフルーツやゴーヤもみられる。

「湯立」は、午後7時に御旅所前で行われる。神水をはった大きな釜を沸騰させ、中に神酒、塩、米を入れる。神官がその神湯を神前に献上すると、鐘と太鼓に合わせて巫女が剣の舞の神楽を踊る。その後、煮立った釜の湯を神笹ですくい、集まった人々に振りかけて無病息災を願う。特に、子供が煮え湯にかかると学問がよくできるようになるといういわれがあり、前列には多くの子ども達が御利益を求め集まっている。

(林善嗣委員)

家族経営協定を締結しました!

平成23年9月27日、林会長を立会人として、飯岡の杉田充さん・智恵美さんご夫妻と、お母様の厚子さんの3名が経営方針や役割分担などを取り決めた家族経営協定を締結されました。今まで以上に家族一丸となって、農業経営に励まれるとのこと、身を引き締められていました。



締結の主なメリット
①やる気と責任が生まれ、経営の発展につながります。
②農業者年金の保険料について、条件によっては国からの助成を受けられます。



今年山梨県から京田辺市に移り住み、新規就農を果たされた三沼亮士さん (30) に投稿いただきました。

私が農業を志したのは、今から4年ほど前です。当時、東京で金融関係のサラリーマンをしており、「ものづくり」に対する漠然とした憧れを持っていました。ある時、大学時代の友人に「これからは農業が熱い」という話を聞き、そして、自分で調べうるうちに、農業にのめり込んでいきました。目の前の植物に対して実直に向き合い、毎日の積み重ねにより結果を出す働き方に憧れ、また、自分が金融で学んだ事を農業に生かす事が出来るのではないかと思ひ、脱サラしました。

いのか悩んでいました。そんな若者に農業が就職先として選択肢になるような農業生産法人の設立を将来の目標としています。今後は夏場のナス、冬場の葉物野菜を中心に作付けし、作業のマニュアル化と効率化を行い規模の拡大を目指していきたいです。まずは、いい野菜を作れるよう、先輩農家の皆様に学び、一生懸命働きたいと思ひます。

先輩農家の皆様に日々感謝です。

脱サラ後、私は山梨県の農業法人で2年間農業を学びました。その法人は日本全国から農業に興味のある若者を短期研修生として、年間数百人受け入れを行っています。皆、農業に対して熱意を持っていましたが、将来どうやって農業に携わっていくべき



魅力いっぱい全国農業新聞

全国農業新聞には様々な農業に関する情報が満載です。農業委員になって購読するようになり、情報量の豊富さに驚いています。地震の爪痕は深く、毎号、地震、放射能関連の記事が目立ちます。特に東北の農業は未だかつてないほどの窮地に立たされています。遅い国の対応に振り回されている生産者は、さぞかし苦しい思いをしていることでしょう。今こそ日本人が一丸となって、被災地の復興と、農業の再生を全力で支援すべきときであると思ひます。全国農業新聞は、一般紙に載っていない最新の農業情勢を伝えてくれるので、農業者としてとても役立っています。

お申込みは農業委員会事務局まで! **毎週金曜日発行 購読料: 月600円**
(香村侃彦委員)

メリットいっぱい農業者年金

農業者の皆さん、老後の備えは大丈夫でしょうか? そんな思いから私は、まず最初に息子に加入を勧めました。国民年金だけでは、とても将来が不安です。何かプラスαあれば、そこで公的年金である農業者年金と出会いました。

- <メリット>
- ①積み立て方式で支払った保険料は将来年金として受け取れる。
 - ②支払った保険料は全額控除の対象 (節税の効果!)
 - ③頑張る担い手には国からの補助が。
- 若い間は保険料を掛けるのが大変だと思いますが、思い切って加入することをお勧めします。自分の老後は自分で計画を立てて支えてください。お申込みは農業委員会事務局まで! (森田典子委員)



Q 農地を相続したのですが、手続き必要ですか?

A 農業委員会に届出が必要です。耕作困難な場合はご相談を!

絶対に負けられない
戦いがそこにはある!



「普賢寺ふれあいの駅」で夏祭りが行われました
8月24日、市最大の農産物直売所「普賢寺ふれあいの駅」で夏祭りが開催されました。雨に降られながらの夏祭りでしたが、子どもさん達の参加も多く、金魚すくいやカラオケなど大いに盛り上がりました! 来年もご参加お待ちしております。
(山下明子委員)